

広大なオーストラリア—車は高齢者の欠かせぬ足 ジェッフ・ヒスコック

Vast Australia—Cars Are Indispensable to the Elderly Geoff HISCOCK

浅井 保健衛生、医学の進歩によって高齢者の割合が高くなっており、オーストラリアでも高齢者のドライバーが多いと聞いています。オーストラリアではどのように高齢者ドライバーに対処しているのでしょうか？

ヒスコック 私の父は73歳ですが今も運転しています。だんだん年をとると、車は一層大切になると思います。というのも、一般的に核家族が多く、私の場合も両親はシドニー

に住んでいますが、私はシドニーからは離れた田舎に住んでいました。ですからお互い行き来するのに車をよく使い、日本より重要度が高いと思います。御存知のようにオーストラリアは広大な国なので、交通は日本ほど発達していないように思いますね。

浅井 それは公共交通ということですね。

ヒスコック はい。地下鉄もシドニーやメルボルンなどの大都会にしかありません。新幹線もありません。飛行機はポピュラーですが運賃が高いのが難点です。他にアメリカと同じようにグレイハウンドバスが使われています。

浅井 ところで、オーストラリアではシートベルト規制が積極的に進められているようですね。

ヒスコック そうですね。日本でもオーストラリア大使館の人は、大使館の車を使う場合必ずシートベルトを使用しなければならない規則があります。

浅井 そのように、オーストラリアでは、交通に関してかなり高い見地から政策がすすめられているよ

うに思うのですが、高齢者の問題についてはどのような意見があるでしょうか？

ヒスコック それはとても難しい問題ですね。車は自分の生活にとっては大変必要ですが、加齢と共に健康上の問題が生じてきますから、視力が衰えたり…。ですから、オーストラリアでは、70歳以上の免許保持者に対して特別な試験があります。

浅井 それはどんな内容のものですか？

ヒスコック 視力などを調べる身体検査や反応時間のテスト、それに実技試験などです。

浅井 それは、免許証を維持していくためには、誰でも受けなければならない試験なのですか。

ヒスコック そうです。

浅井 もし、受けなければその免許証は無効になるのですか。

ヒスコック ええ、そうです。州によって少し違いますが、普通、運転免許証の有効期限は5年間ですが、70歳になると1年ごとにその試験を受けなければなりません。

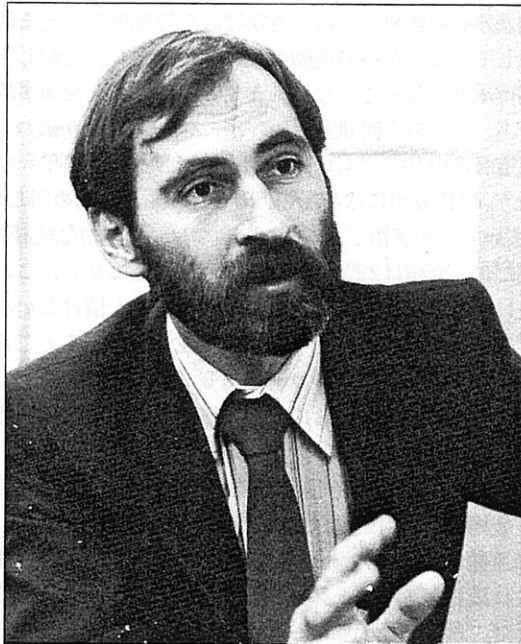
浅井 70歳になったら、そういう試験を受けることを課せられているということに対して、オーストラリア

人はどういうふう感じているのでしょうか？

ヒスコック まあ、仕方がないのではないかとこのように思っているようです(笑)。

浅井 私が10年程前にオーストラリアに行った時には、そのようなことはなかったと思いますが、最近のことですか？

ヒスコック そうですね。高齢者に対する免許制度



オーストラリア大使館広報担当参事官。初来日は1978年、今年の6月に再来日。来日前はジャーナリストを経て、オーストラリア政府の広報機関に勤務。

インタビュー

浅井正昭

当学会誌編集委員。日本大学文理学部教授。専門は環境心理学。イリノイ大学で情緒的意味体系の比較文化研究等に従事し、現在に至る。最近、非言語コミュニケーション・プロセスの研究に取り組んでいる。



と危険ですね。

浅井 オーストラリアではどうですか？

ヒスコック 100kmで走ってはいるのですが、大型トラックは常に左の車線を走行します。オーストラリアでは、大型トラックの並行走行はありえません。

浅井 並行して速いスピードで走るということですね。その他、何かお気付きのことはありますか？

ヒスコック 設備はいいですね。高速道路の設備は非常に素晴らしいと思います。技術的な面で先進国のイメージがよく出ていますね。大きな橋とか、トンネルとか……。

浅井 案内標識はどうですか。

ヒスコック 比較的わかりやすいと思います。家内は漢字は読めません。たとえば「この道は福島まで」という字は読めませんが、203とか364という数字でわかるので、なかなかよいシステムだと思います。

浅井 日本の交通に対して、何か望まれることはありませんか？

ヒスコック 道幅をもっと広く！（笑）。駐車場も狭いですね。2階建て、3階建ての駐車場などの発想はオーストラリアではありませんね。タクシーに対しては、いろいろ批判の声があると思います。一例をあげると、降車するとき、ドアが十分開けられなくて降りにくいですね。まあ、道が狭いせいもありますが……。

浅井 ヒスコックさんの発想には、やはりオーストラリアの広大な土地のイメージがあるようですね。お忙しいところ、どうもありがとうございました。

インタビュー後記

インタビュー全般において、日本とオーストラリアの国土の違いを感じさせられました。広大なオーストラリアでは、それだけ自動車的重要性が大きいようです。また、これに関連して、高齢者ドライバーの問題も生活に密着したことで受けとめられており、現実的対処がなされているようです。

ヒスコック氏は、日本の道路技術は高く評価なさっていますが、道幅、駐車場などには問題意識をお持ちです。なお、日本でも、必ずシートベルトは着用なさるそうです。（昭和58年9月28日実施）

もそうですが、最近、オーストラリアでは交通規則が厳しくなってきましたね。シートベルト規制も実施されていますし、特に、飲酒運転に対して非常に厳しくなりました。その理由の一つに、制限速度が高いということがあります。オーストラリアの制限速度は110kmです

浅井 それは高速道路の制限速度ですか？

ヒスコック ええ、そうです。でも、地方では交通量が少ないので、もっと速いスピードで走っている人が多くいます。ですから、事故が起こった場合は、非常に大きな事故となります。

浅井 規則を厳しくしたことで、何か特別な効果が見られましたか。

ヒスコック はい。たとえばヴィクトリア州では、飲酒運転を厳しく取り締まることによって、最近、非常に死者数が減ってきました。

浅井 ところで、ヒスコックさんは日本に長くいらっしやっただ後一度お帰りになって、再度、来日なされたそうですね。

ヒスコック はい。前回は3年間日本にいました。

浅井 日本でいろいろ動かれるときに、ご自分で運転なさったでしょうし、タクシーにもお乗りになったことと思いますが、日本の交通に関してはどのように御感想をお持ちですか？

ヒスコック 私の個人的な意見ですが、日本では割合事故が少ないように思います。速度も他の国と比較すると低いですね。

浅井 制限速度が。

ヒスコック ええ、日本では制限速度が40kmか60kmですね。ちょっとオーストラリアでは考えられませんね。

浅井 しかも交通量の多い少ないにかかわらず40kmというのは、少しおかしいのではないかと、この学会でも論じられているのですが、スピードコントロールについてはどうお考えですか？

ヒスコック たとえば、東名高速道路で見かけたのですが、大型トラックが3車線を並行して、100km以上で走っていました。その道路の交通量を考える